

地方独立行政法人長野県立病院機構
平成30年度 評価結果 (案)

令和元年 月

長 野 県

長野県は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項に基づき、次のとおり地方独立行政法人長野県立病院機構（以下「病院機構」という。）の平成30年度における業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を行った。

第1 年度評価の概要

1 年度評価の目的

年度評価は、評価対象年度以降における病院機構の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化、透明性の確保に資すること等を目的とする。

2 年度評価に関する基本方針等

年度評価は「地方独立行政法人長野県立病院機構の評価に関する基本方針」及び「地方独立行政法人長野県立病院機構の各事業年度の業務実績に関する評価実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて行う。

3 年度評価の視点

(1) 平成30年度の年度計画の実施状況に対する評価の視点

年度計画に沿った病院運営が行われ、県民に提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化並びに財務内容の改善が図られているかどうかを検証し、取組の状況及び成果について評価を行う。

(2) 平成29年度評価の「今後に向けた課題」への取組に対する評価の視点

平成29年度評価で指摘した課題を克服するため、具体的な取組が行われ、改善されているか、あるいは改善の見込みがあるかどうかを検証し、課題への対応状況について評価を行う。

(3) 中期目標の期間（平成27～令和元年度）の進捗状況に対する評価の視点

平成30年度における取組が、中期計画の着実な達成のために十分なレベルに達しているかどうかを検証し、中長期的な視点から評価を行う。

4 地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会の意見聴取

年度評価を行うにあたり、地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会条例及び実施要領の規定に基づき、地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）を7月24日、26日、8月8日及び9月2日に開催し意見を聴取した。

〔地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会委員名簿〕

氏名	役職等
鮎澤英之	あがたグローバル税理士法人 公認会計士、公認不正検査士
小口壽夫	諏訪赤十字病院 名誉院長
○小宮山 淳	松本秀峰中等教育学校校長
関 利恵子	信州大学経法学部 准教授
浜田 淳	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授
宮坂 佐和子	諏訪赤十字病院 副院長兼看護部長
山上 哲生	大日本法令印刷株式会社 代表取締役社長

(50音順、敬称略、○は委員長)

2 項目別評価

(1) 大項目「第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の評価

県による評価	A	病院機構による評価	A
--------	---	-----------	---

〔評価区分と判断の目安となる業務実績〕

S 年度計画を大幅に上回って達成している

A 年度計画を達成している

B 年度計画を下回っており、改善を要する

C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

ア 評価の理由

「県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の各小項目における取組について、いずれも年度計画を達成している。

特に、こころの医療センター駒ヶ根における思春期年代（15歳から18歳まで）の患者を対象とした思春期外来の開設や、阿南病院における小児科の日曜診療の実施、こども病院におけるアレルギー検査の充実や母子メンタルヘルス外来の開設については、地域の医療ニーズに積極的に対応した取組である。

また、信州木曾看護専門学校において3年連続で卒業生全員が看護師国家試験に合格し、地域医療を担う看護人材を輩出したことや、木曾病院において将来の医療技術職員や病院事務職員の確保に向け高校生の医療体験を開催し、県内各地の多くの高校生が参加したことは、病院機構内の人材に留まらず、県内医療機関における人材確保に貢献した取組であること、または今後の貢献が期待できる取組である。

一方、数値目標に対する達成状況としては、木曾病院の入院患者数やこども病院の入院・外来患者数、在宅医療件数などは目標を上回っている。信州医療センターの内視鏡検査件数や分娩件数などは目標を下回っているが、内視鏡検査については、市町村が実施している検診事業の受託や公開講座の実施、分娩件数については病室の個室化やアメニティの向上、イベントでの出展等の積極的な広報活動を行い、前年度から件数を増加させている。

以上のことから、各病院が地域に必要な医療・介護サービスを提供するとともに、医療の質の向上に向けた取組が着実な成果を上げたことから、「県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」について、年度計画を達成しているため、A評価とした。

イ 第2期中期計画の進捗状況

それぞれの病院がもつ医療機能を維持・充実させ、地域で求められている役割を着実かつ積極的に果たしていること、また、信州木曾看護専門学校や各病院で医療人材を着実に養成し、県内医療水準の向上に積極的に貢献している。

以上のことから、「県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」について、中期計画の達成に向けて順調である。

ウ 今後に向けた病院機構全体の課題

- 引き続き、医療需要と患者動向を把握し、質の高い医療サービスを効果的に提供していただきたい。
- 費用対効果を考慮しつつ、地域の需要に応じていくため、今後も病院機構に必要な人材の確保と養成に努めていただきたい。
- 引き続き、県内の医療機関に従事する人材を積極的に養成することで、県内の医療水準の向上に貢献していただきたい。
- 地域の医療・介護資源を効果的に活用するため、地域医療構想及び地域医療構想調整会議での議論を踏まえ、地域の医療機関との機能分化・連携を図るとともに、病院規模を中長期的な視点での検討及び取組を始めていただきたい。

エ 小項目別の評定

小項目	県の 評定	機構の 評定
1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供		
(1) 地域医療の提供	A	A
(2) 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進	A	A
(3) 高度・専門医療の提供	A	A
(4) 災害医療などの提供	A	A
(5) 医療におけるICT（情報通信技術）化の推進	A	A
2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上		
(1) 地域の医療、保健、福祉関係機関などとの連携	A	A
(2) 5病院のネットワークを活用した診療協力体制の充実強化	A	A
3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献		
(1) 医療従事者の確保と育成	A	A
(2) 県内医療に貢献する医師の育成と定着の支援	A	A
(3) 信州木曾看護専門学校の運営	A	A
(4) 県内医療水準の向上への貢献	A	A
(5) 医療に関する研究及び調査の推進	A	A
4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供		
(1) より安全で信頼できる医療の提供	A	A
(2) 患者サービスの一層の向上	A	A

〔評定区分と判断の目安となる業務実績〕

S 年度計画を大幅に上回って達成している

A 年度計画を達成している

B 年度計画を下回っており、改善を要する

C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

オ 数値目標に対する達成状況

(7) 患者数

入院は木曾病院とこども病院で目標を上回ったが、阿南病院で大きく下回った。外来はこども病院で目標を上回った。

区 分		平成30年度 実 績(a)	平成30年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
信 州 医 療 セ ン タ ー	入院	90,876人	91,051人	99.8%
	外来	120,801人	121,155人	99.7%
こころの医療 センター駒ヶ根	入院	37,515人	37,668人	99.6%
	外来	40,051人	41,310人	97.0%
阿 南 病 院	入院	19,272人	21,500人	89.6%
	外来	47,667人	48,988人	97.3%
木 曾 病 院	入院	48,709人	46,107人	105.6%
	外来	127,418人	129,256人	98.6%
こ ども 病 院	入院	55,723人	52,797人	105.5%
	外来	64,946人	63,113人	102.9%

(イ) 新規患者数等（信州医療センター）

いずれも目標を下回った。

区 分	平成30年度 実 績(a)	平成30年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
新 外 来 患 者 数	24,623人	26,500人	92.9%
手術件数（手術室）	1,613件	1,650件	97.8%
内 視 鏡 検 査 件 数	7,013件	7,800件	89.9%
分 娩 件 数	186件	265件	70.2%

(ウ) 在宅医療件数（訪問診療・看護・リハビリ）

3病院とも目標を上回った。

区 分	平成30年度 実 績(a)	平成30年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
信 州 医 療 セ ン タ ー	7,588件	6,660件	113.9%
阿 南 病 院	2,293件	2,200件	104.2%
木 曾 病 院	4,801件	4,300件	111.7%

(イ) 紹介率及び逆紹介率

紹介率は木曽病院とこども病院で上回った。逆紹介率は木曽病院で目標を上回ったが、こども病院で大きく下回った。

区 分		平成30年度 実 績(a)	平成30年度 目標値(b)	対目標増減 (a)-(b)
信 州 医 療 セ ン タ ー	紹介率	59.6%	63.7%	△4.1ポイント
	逆紹介率	15.4%	18.0%	△2.6ポイント
阿 南 病 院	紹介率	20.3%	21.0%	△0.7ポイント
	逆紹介率	13.0%	15.0%	△2.0ポイント
木 曽 病 院	紹介率	27.0%	21.0%	6.0ポイント
	逆紹介率	18.1%	14.0%	4.1ポイント
こ ども 病 院	紹介率	74.0%	70.0%	4.0ポイント
	逆紹介率	73.9%	90.0%	△16.1ポイント

(オ) 認定資格の取得人数

区 分	平成30年度実績	平成30年度目標値
認 定 看 護 師 資 格	1 人	2 人

カ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>各病院において、引き続き、患者ニーズと患者動向の把握に努め、質の高い医療サービスを効果的に提供していただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から須高医師会、市町村との連携による対策型胃内視鏡検診が始まり、平成 29 年 7 月の東棟開設に伴い診療環境が向上した内視鏡センターと健康管理センターの連携強化によりがん早期発見機能及び予防医療の充実を図っている。 ・ また、産科医療については、平成 30 年 4 月から常勤の女性産科医師を 1 名増員するとともに、産科医師の負担軽減と地域の分娩体制の維持を目的とした院内助産実施に向けて、助産師を「信州大学院内助産リーダー養成コース」研修に派遣し、体制の整備を図った。 ・ 今後も地域の関係機関との連携を強化し、疾病予防・健康増進から急性期・回復期医療まで様々なニーズに沿った医療の提供に努めていく。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 退院前の外出・外泊訓練による評価を多職種で実施することで、入院期間の適正化を図り、昨年度に比べ 3 ヶ月以内の再入院率を低下させることができた。 ・ 地域連携室を中心とした関係機関等への訪問により、地域のニーズを把握するとともに、総合病院におけるニーズに対しても効果的に対応できるよう体制整備を行った。中長期的には、国及び県の施策の中で本院が担うべき役割を見極め、関係機関と調整しながら計画的に進めていく。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 下伊那南部地域の中核病院として、地域の医療需要に応じた診療体制の充実を図り、住民のニーズに応える地域医療を推進していく。 ○ 木曾病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 木曾地域の高齢化の進展に伴う医療ニーズの変化に対応するため地域包括ケア病棟、患者サポートセンターを開設し、患者の状況に即した医療サービスを提供できる体制を整えた。さらに介護医療院の開設準備を進めている。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本院は紹介型の病院であるため、県内の主要病院や近隣県の病院を直接訪問して患者動向の把握に努めるとともに、本院の取組を説明する等の取組を行っている。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>各病院において、地域のニーズに応えるため、医療の質の向上を図り、医療サービスを効果的な提供したことが認められた。</p>

<p>今後も地域に必要な医療を提供していくため、県や関係機関と連携しながら、経営状況等を勘案の上、必要な人材の確保と育成に努めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師確保については、医師臨床研修マッチングにおいて、多職種協働による活動の結果、定員の2人を確保した。 ・ 資格職種の求人に当たり、正規職員としての雇用を求める声がハローワーク等を通じ多く寄せられているため、本部と連携し、採用試験を随時実施するとともに、人材派遣会社を活用し、産育休取得者、退職者の補充に努めた。 ・ 職種ごとに資格取得等研修派遣計画を策定するなど、計画的な育成に努めている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 欠員に対してハローワークへの求人募集など迅速に対応するとともに、早期入職を行うなど人材の確保に努めた。 ・ また、各セクションの業務のやり繰りを通じて、各種研修会に参加しやすい環境づくりを行った。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の医療機関等で行う合同就職ガイダンスへ参加し、病院からの情報発信に努めている。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学生を対象とした病院見学会、県内高校生を対象とした医療体験を開催するなど、将来的な人材の確保に向けた取り組みを行っている。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国から医師をはじめ多職種の人材を確保するため、当院で働くことの魅力を高め、情報発信することが重要。 ・ このため、信州大学との連携大学院を開校し、令和元年度は4名が入学した。また、病院独自の研究助成、独自のセミナー開催などに取り組んでいる。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療報酬改定に対応し、医療機能の再編・強化を踏まえた必要な人員確保に努めた。 ・ 県や信州大学を通じて医師の派遣を受け、地域に必要な医療を提供するための職員配置を行った。 ・ 研修体系や個別研修計画の概要を示した「平成30年度職員研修計画」を冊子にして周知を図り、研修の充実と受講促進を図った。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>医療の質の維持・向上と、経営を両立する視点において、必要な人材を確保し、育成を図ったことが認められた。</p>
---	---

(2) 大項目「第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項」の評価

県による評価	A	病院機構による評価	A
--------	---	-----------	---

〔評価区分と判断の目安となる業務実績〕

S 年度計画を大幅に上回って達成している

A 年度計画を達成している

B 年度計画を下回っており、改善を要する

C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

ア 評価の理由

「業務運営の改善及び効率化に関する事項」の「病床利用率の向上」以外の各小項目における取組について、年度計画を達成している。

特に、経営改善プログラムによる取組をはじめ、病院機構が一丸となって収益の確保と費用の削減に向けて積極的に取り組み、大幅な収支改善という結果につなげたことは、単年度の取組結果に留まらず、今後の持続的な病院運営という観点からも大きな成果となった。

病床利用率の向上については、各病院での積極的な取組により、木曽病院、こども病院では目標を大きく上回った。こころの医療センター駒ヶ根では目標にわずかに及ばず、阿南病院では目標を大きく下回っているが、こころの医療センター駒ヶ根では在宅移行を推進し、平均在院日数の短縮に努めており、阿南病院では運用病床数の見直しにより病床利用率の向上に向けて取り組んでいる。

以上のことから、経営改善への取組や人員配置の適正化を始めとする多くの取組が着実に成果を上げており、「業務運営の改善及び効率化に関する事項」について、年度計画を達成しているため、A評価とした。

イ 第2期中期計画の進捗状況

平成30年度は、第2期中期目標期間に進めてきた、病院を一体的に運営するための職員意識の向上に向けた取組や、経営改善に向けた努力が、大きな成果となって表れた。

病床利用率の向上に向けた取組について、木曽病院とこころの医療センター駒ヶ根で中期計画を下回っており、第2期中期計画の達成に向けては、さらに具体的な取組が求められる。

以上のことから、「業務運営の改善及び効率化に関する事項」について、中期計画の達成に向けて概ね順調である。

ウ 今後に向けた病院機構全体の課題

- 収支の大幅な改善につながった経営改善プログラムについて、取組を続けるとともに、進捗状況を把握し成果と課題を分析することで、今後の経営改善に活かしていただきたい。また、プログラム作成から期間が経過し、状況が変化していることも考えられることから、収益の確保と費用の抑制に向けた新たな取組についても積極的に検討し、実行していただきたい。
- 働き方改革関連法を踏まえ、各病院を持続的に運営し地域の医療を守るために、必

要な措置を検討し、積極的に実行していただきたい。

- 令和2年度の診療報酬改定への対応について、医療の質の向上と経営効率の観点から、研究及び分析を行うとともに、速やかに実行できるように取り組んでいただきたい。
- 職員給与費対医業収益比率は改善している病院もあるが、今後の持続的な病院運営に向け、適正かつ効率的な人員配置に向けた取組を継続するとともに、給与制度の見直しの取組をさらに進めていただきたい。

エ 小項目別の評価

小項目	県の 評価	機構の 評価
1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり		
(1) 柔軟な組織・人事運営	A	A
(2) 仕事と子育ての両立など多様な働き方の支援	A	A
2 経営力の強化		
(1) 病院経営に一体的に取り組むための職員意識の向上	A	A
(2) 経営部門の強化	A	A
3 経営改善の取組		
(1) 年度計画と進捗管理	A	A
(2) 収益の確保と費用の抑制	A	A
(3) 情報発信と外部意見の反映	A	A
(4) 病床利用率の向上	B	B

〔評価区分と判断の目安となる業務実績〕

S 年度計画を大幅に上回って達成している

A 年度計画を達成している

B 年度計画を下回っており、改善を要する

C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

オ 数値目標に対する達成状況

(7) 医療材料費／医業収益比率

信州医療センター、こころの医療センター駒ヶ根、阿南病院、木曽病院で目標を達成した。

区 分	平成30年度 実 績(a)	平成30年度 目標値(b)	対目標増減 (a)-(b)
信州医療センター	24.3%	25.2%	△0.9ポイント
こころの医療 センター駒ヶ根	5.7%	9.3%	△3.6ポイント
阿南病院	15.5%	16.1%	△0.6ポイント
木曽病院	22.4%	23.5%	△1.1ポイント
こども病院	21.3%	20.0%	1.3ポイント

(イ) ジェネリック医薬品使用率

4病院とも目標を上回った。

区 分	平成30年度 実 績(a)	平成30年度 目標値(b)	対目標増減 (a)-(b)
信州医療センター	90.0%	80.0%	10.0ポイント
阿南病院	86.2%	80.0%	6.2ポイント
木曾病院	82.4%	80.0%	2.4ポイント
こども病院	86.5%	85.0%	1.5ポイント

(ウ) 病床利用率

信州医療センター、木曾病院、こども病院で目標を上回った。

区 分	平成30年度 実 績(a)	平成30年度 目標値(b)	対目標 (a)-(b)
信州医療センター	81.2%	80.9%	0.3ポイント
こころの医療 センター駒ヶ根	78.5%	80.0%	△1.5ポイント
阿南病院	60.4%	70.0%	△9.6ポイント
木曾病院	78.1%	72.6%	5.5ポイント
こども病院	78.0%	73.4%	4.8ポイント

《病床数》

- ・信州 平成30年11月まで226床、12月から215床（結核病床、感染症病床、地域包括ケア病床を除く）
- ・駒ヶ根 129床
- ・阿南 平成30年12月まで85床、平成31年1月から77床
- ・木曾 平成30年2月まで186床、3月は181床、4月から159床（感染症病床を除く）
- ・こども 180床

カ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>平成 29 年度に作成し取組を始めている経営改善プログラムについて、引き続き取組を進めるとともに、進捗を管理し、成果と課題を分析することで、より実効性の高いプログラムとしていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 収益確保及び費用削減の取組を進めるとともに、全部署を対象にした院長ヒアリングを実施し、P D C Aによる進捗管理と成果及び課題の分析を行っている。 ・ 状況変化に対応して経営改善プログラムの改善見込を見直し、新たな増収策や費用削減策の検討及び実践を行っている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収益増に係る取組については病院運営会議の報告事項として実績を共有したほか、電子カルテの更新に伴い、新たな加算を取得する体制を整えた。費用削減については、事務部を中心に取組み、計画どおりとなった。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営改善プログラムについては各科から増収案等が提案され、その実行に取り組み結果として収益が増となった。 ・ 経営企画会議において経営改善プログラムの進捗状況を検証し、見直しを実行した。 ・ またアクションプラン（各科の目標）も検証し経営改善に繋がった。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の月次決算の状況をまとめ、分かりやすく解説するとともに各部署の取組みを紹介する「経営改善ニュース」を発行し、職員の意識の醸成とプログラムの着実な推進を図った。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな課題に積極的に取り組むことにより経営改善を進めた。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営改善プログラムの着実な実行などにより、平成 30 年度計画の経常利益+21.9 百万円に対し、実績では計画を大きく上回る 417 百万円を超える経常利益が見込めるところとなった。 <p>【評価】</p> <p>経営改善プログラムをはじめ、収益の確保と費用の抑制のため、各病院・機構本部が積極的に取り組んだことにより、収支を大幅に改善したことが認められた。</p>

<p>病院運営に組織がこれまで以上に一体となって取り組むため、医師を始めとしたすべての役職員の経営参加・協力を一層進めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職者を対象とした運営会議を毎月開催し、運営動向及び月次決算を踏まえた経営状況の分析報告、各部門の業務実績報告を行い、経営状況の全職員への周知と方向性の徹底を図っている。 ・ 毎月の全体朝礼において、全職員に向けた院長からの経営状況説明やPDCAの実施により、組織全体の経営参加・協力を図っている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職員に限らず病院への帰属意識を高め、経営参加・協力を一層高めるため、病院運営会議において月次決算状況を説明した。 ・ 院長との意見交換会の実施や働きやすい職場環境の実現に向けた方策を検討するため、「職場環境改善コアチーム」を設置し、看護ラダーと2交替制勤務について検討を開始したほか、院内広報誌のリニューアルなどを行った。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回行っている運営会議において経営状況の分析報告を行い、職員に周知を行うとともに、各セクションに赴き、打合せ等に併せて説明会を開催し、経営改善の意見交換を行った。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に2回開催する運営会議のうち、1回を全職員が参加可能とし、患者数や決算状況の認識の共有を図るとともに、損益分岐点分析から入院患者数の目標を定め、1歩2歩9ろじ（129人/日）のキャッチフレーズの下、組織全体の経営参加・協力を図っている。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに診療部医師2名を経営企画室メンバーに加え、より現場の意見を汲み上げた経営改善の機能を拡充した。 ・ 未来志向型である経営企画室プロジェクトを計画し、様々な職員から経営や患者ニーズに応える立案を受け、プロジェクトとして進行させた。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期ビジョンの策定に当たり、病院・学校・研修センター及び本部事務局の各部門職員の積極的な参画を促した。 ・ また、病院等へのヒアリングの際には、院長、副院長、各部長のほか、関係職員の参加により意見交換を行った。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>各病院・本部事務局において、わかりやすいキャッチフレーズを目標として設定し周知するなど、役職員の経営参加・協力を積極的に働きかけたことが認められた。</p>
---	--

<p>機能の新設・拡充や投資を行う場合には、常に経営状況を考慮のうえ、費用対効果を重視し、その後の検証も十分に行っていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器、施設設備ともに老朽化が進み、診療機能を維持するために早急な更新が必要な状況であるが、優先度を精査し更新を行っている。 ・ 産科病棟のアメニティ向上や地域包括ケア病棟の在宅復帰支援機能の強化のための病棟改修など、地域医療ニーズに応えるための機能拡充事業の準備を進めている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機能の拡充等に当たっては、地域のニーズと国等の政策との整合を図りながら行っている。 ・ また、投資に当たっては、故障対応困難なものを優先して更新を行っている。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資本的支出の決定する場合は院内の医療機器等購入調整委員会で経営状況を踏まえて必要性等を審議し、必要な機器の購入に努めている。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内の医療機械等購入委員会において、各部門の要望を集約し、経営状況・必要性等を踏まえて検討を行い、購入等の可否を決定した。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子カルテ更新に合わせた医療機器や関連システムを統一化することや各種データのクラウド化による経費削減を検討した。 ・ 医療機器の更新に関しては機能だけでなく金額を精査し、資金計画を入念に立てていく。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器の導入に際し、医師、医療技術者の代表等から構成される医療器械等審査部会で、効率的かつ効果的な取得を図る観点から審査し、購入の可否等の判断を行った。 ・ 過去に導入した医療機器については、新たに「医療器械等購入収益予測表（医療器械の収益性を人件費等の固定費を控除して予測）」を活用して、その利活用策についても検討した。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>投資に際し、費用対効果を重視していること、その後の利活用についても、積極的に進めていることが認められた。</p>
---	--

<p>病床利用率について、すべての病院が目標を下回ったことを踏まえ、病床利用率向上に向けた短期的な取組を行うとともに、中長期的な視点による病棟規模の適正化の検討を進めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 院長や連携室職員による地域の診療所等への積極的な訪問など地域連携強化の取組を行い、紹介患者数の増加や新入院患者数の増加を図った。 ・ タイムリーに院内へ病床利用率を発信し、損益分岐点となる目標値達成へ向けて全職員の意識向上に努めた。 ・ 中長期的には、地域の医療需要・疾病推計に応じた診療体制及び地域政策医療としての産科医療体制の充実、地域包括ケアシステムを支えるための病棟活用などにより、須高地域の中核病院としての機能を果たしていく。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携室において、近隣のクリニックを訪問し、連携強化を図っている。 ・ 平成30年度の病床利用率は目標を下回ったが、平成25年以降は毎年度向上し、平成29年度は過去最高となった。しかし、病床利用率は変動が大きく、年間通じて安定させることが課題になっている。 ・ アルコール依存症患者の計画的な受入れについて、コアチームにおいて検討を行い、取組みを始めた。 ・ 病棟規模については、国・県の施策や他医療機関の動向を勘案しながら検討する。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減が進む当圏域の阿南病院の役割を明確化し、地域医療を推進する病床数の見直しについての方向性を決定するため、病棟再編ワーキンググループを開催し、検証を行った。 ・ この結果を踏まえ、平成31年1月から運用病床を77床として取り組んでいく。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケア病棟を開設するとともに、許可病床数を減らし、効率的なベッドコントロールに努めた。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北信越唯一の小児専門病院という立地特性や特徴ある診療部門を活かした県外からの患者増加、地域医療支援病院承認を契機とした地域の医療機関との連携強化を進め、患者数の維持、増加に取り組んでいる。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の月次報告に基づく経営分析のほか、収益増対策として、入院患者数の動向や収益確保につながる診療報酬点数についての情報共有を図った。 ・ 中長期的には、地域医療構想の動向を注視しつつ、病床規模の適正化について検討していく。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>病床利用率の向上に向け、各病院で短期的な取組を積極的に行ったことが認められた。</p> <p>今後は、中長期的な視点での病院規模の検討を進めることを期待したい。</p>
---	---

<p>職員給与費対医業収益比率について、前年度からは改善したものの、依然として高い状況にあることから、人員配置の適正化計画を速やかに策定し、適正かつ効率的な人員配置に向けた取組を実行していただきたい。</p> <p>また、給与制度については、これまでに順次見直しを行ってきた努力を認めるが、病院機構の健全な経営に向け、更なる給与制度の見直しに取り組んでいただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床利用及び医療・看護必要度に応じた適正な人員及び職種配置に努めるとともに、育児短時間職員の勤務スタイル見直しを行い、配置人数の適正化を図っている。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 期間限定雇用職員の採用にあたっては、職員採用の必要性について本部事務局と十分協議した上で求人を行い、人員配置の適正化に努めている。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の実情に見合った診療体制の充実を図りながら、適正かつ効率的な職員配置を検討していく。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 有期職員の職員数について見直しを行い、育児短時間勤務者の有効活用等適正な人員配置に努めた。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 費用対効果を厳しく分析した上で、収益向上につながる人員配置に取り組むとともに、機構本部と連携して給与制度の見直しに取り組んだ。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「医療安全の確保」と「経営的な視点」を両立させる看護部の適正人員数のために、自作の「適正人員試算表」を活用した試算数と重症度、医療・看護必要度等の分析により、重症度に応じた傾斜配置に取り組むなど、各病院は人員配置の適正化に向けて前向きな取り組みを行った。 ・ 試算表に基づく取組結果又は状況を 10 月及び 1 月の合同会議で報告し合い、今後に向けた検証を行っている。 ・ 給与制度については、組合交渉を重ねた結果、主に以下の見直し等を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ① 特殊勤務手当（医療・福祉業務）の適正化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日額単価の変更（医師以外を一律 100 円減額） ・ 20 日を基準として月額化 ・ 薬剤師等対象職種の拡大 ・ 麻薬管理者手当額の改正（8000 円→4000 円） ② 給料の調整額を廃止 <ul style="list-style-type: none"> ・ こころの医療センター駒ヶ根の看護師等に支給していた給料の調整額を廃止し特殊勤務手当化（月額 16000～23200 円→22000 円） ③ 医師に対する診療賞与の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月額支給の初任給調整手当を年 2 回の診療賞与へ変更 ・ 評価結果に基づき加算分を上乗せ支給（当面は超勤実績見合い） ④ 勤勉手当の留保（単年度措置） <ul style="list-style-type: none"> ・ 12 月支給時の勤勉手当 0.1 月分の支給を留保し、経営収支状況を見極めた上で 3 月に支給 <p>【評価】</p> <p>職員給与費対医業収益比率の抑制に向け、各病院で人員配置の適正化に取り組んだこと、機構全体として、給与制度の見直しに取り組んだことが認められた。</p>
---	--

<p>厚生労働省で検討が進められている「医師の働き方改革」については、引き続き、動向を注視し、タスクシフト等の検討を進めるなど、柔軟な対応をしていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職を中心としたメンバーによる「働き方改革関連法対応プロジェクトチーム」を平成 30 年 9 月に設置し、定期的な会議において、医師をはじめとした働き方改革の具体的な取組みについて検討を開始している。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟における薬剤業務強化のため、薬剤科に委託職員 1 人を配置するとともに、デイケア科に非常勤職員 1 人を配置し、タスクシフトを推進している。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで看護師（初診時の予診等）、医療クラーク、薬剤師等（服薬指導等）の多職種によるタスクシフトに取り組んでおり、医師の働き方改革の趣旨を踏まえ、これらの徹底を図る。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師連絡会議において、勤怠管理方法の検討を行っている。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでも医師負担の軽減を図るため、医師事務作業補助者を 13 人配置するなどタスクシフトを進めてきたが、今後はNICU医師の交代制勤務導入など抜本的勤務体制の見直しなど大変難しい課題に取り組んでいきたい。 ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当職員を研修会へ派遣するなど情報収集に努め、7月と8月の事務部長会議及び9月の院長会議に報告した。 ・ 2月に次長・総務課長会議を開催し、4月からの対応に向けた取組について確認した。 ・ また、医師の勤務状況把握や自己研鑽のあり方等について、今後取り組む方向性を議論し、11月29日の院長会議を経て以下の取組を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病状説明の原則所定労働時間内実施 ・ 各種委員会等会議の原則所定労働時間内実施 <hr/> <p>【評価】</p> <p>「医師の働き方改革」について、各病院、本部事務局で検討を進め、対応策を検討し、実行し始めていることが認められた。</p>
---	--

(3) 大項目「第3 財務内容の改善に関する事項」の評価

県による評定	A	病院機構による評定	A
--------	---	-----------	---

〔評定区分と判断の目安となる業務実績〕

S 年度計画を大幅に上回って達成している

A 年度計画を達成している

B 年度計画を下回っており、改善を要する

C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

ア 評定の理由

「財務内容の改善に関する事項」について、経常収益は、入院患者数の増加と診療単価の上昇により前年度から約5億6千万円増加した。

経常費用については、患者数の増に伴い材料費が増加したものの、職員数の適正配置により給与費の増加を抑制したこと、減価償却費が減少したことにより、前年度から約2千万円の増加に留めた。

この結果、病院機構全体の経常損益は約4億2千万円となり、3年ぶりの利益を計上するとともに、前年度から約5億4千万円改善し、年度計画を約3億1千万円上回った。

病院別の経常損益は、信州医療センター、木曽病院、こども病院で年度計画を大きく上回ったが、こころの医療センター駒ヶ根、阿南病院で年度計画を下回った。

病院機構全体の資金収支については、現金収入が現金支出を下回ったものの、年度計画を上回った。

以上のことから、年度計画を達成しているため、A評定とした。

イ 第2期中期計画の進捗状況

平成30年度の経常収支の大幅な改善により、第2期中期目標期間の累計で経常収支比率は100%を上回っている。

資金収支の均衡については、第2期中期目標期間の累計で現金収入が現金支出を大きく下回っている。

ウ 今後に向けた病院機構全体の課題

- 収支の大幅な改善につながった経営改善プログラムについて、取組を続けるとともに、進捗状況を把握し成果と課題を分析することで、今後の経営改善に活かしていただきたい。また、プログラム作成から期間が経過し、状況が変化していることも考えられることから、収益の確保と費用の抑制に向けた新たな取組についても積極的に検討し、実行していただきたい。（再掲）
- 経営に取り組むうえで、資金収支の観点は非常に重要であることから、資金収支の長期見通しを速やかに作成していただきたい。また、作成後は、各年度の決算状況等を踏まえ、更新し続けていただきたい。

エ 小項目別の評定

小項目	県の 評定	自己 評定
1 経常黒字の維持	S	S
2 資金収支の均衡	A	B

〔評定区分と判断の目安となる業務実績〕

S 年度計画を大幅に上回って達成している

A 年度計画を達成している

B 年度計画を下回っており、改善を要する

C 年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する

オ 数値目標に対する達成状況

(7) 損益の状況（病院機構全体）

（単位：千円）

科 目	平成30年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 計画	増減 (30-29)	増減 (決算-計画)
経常収益（ア）	23,763,042	23,200,791	23,453,440	562,251	309,602
医業収益	17,303,748	16,814,272	17,099,048	489,476	204,700
うち入院収益	12,481,914	12,063,886	12,302,601	418,028	179,313
うち外来収益	4,352,810	4,311,713	4,356,570	41,096	▲ 3,760
介護老人保健施設収益	361,728	375,370	386,413	▲ 13,642	▲ 24,685
看護師養成所収益	18,846	18,970	20,593	▲ 124	▲ 1,747
運営費負担金収益	5,480,000	5,480,000	5,480,000	0	0
その他経常収益	598,720	512,179	467,386	86,541	131,334
経常費用（イ）	23,345,675	23,324,292	23,431,576	21,384	▲ 85,901
医業費用	21,458,844	21,374,907	21,544,006	83,938	▲ 85,162
うち給与費	12,449,220	12,336,320	12,513,322	112,900	▲ 64,102
うち材料費	3,817,198	3,688,267	3,782,942	128,931	34,256
うち減価償却費	1,944,244	2,173,860	1,960,416	▲ 229,616	▲ 16,172
うち経費	3,182,899	3,112,123	3,168,534	70,776	14,365
介護老人保健施設費用	424,040	423,576	433,784	464	▲ 9,744
看護師養成所費用	154,907	159,185	166,416	▲ 4,279	▲ 11,509
一般管理費	319,787	355,327	295,293	▲ 35,541	24,494
財務費用（支払利息）	404,026	449,510	407,695	▲ 45,485	▲ 3,669
その他経常費用	584,072	561,785	584,382	22,286	▲ 310
経常損益（ア-イ）	417,367	▲ 123,501	21,864	540,867	395,503
臨時損益（ウ）	▲ 612	▲ 6,958	0	6,346	▲ 612
当期純損益（ア-イ+ウ）	416,755	▲ 130,458	21,864	547,213	394,891

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(イ) 損益の状況（病院等別：前年度実績との比較）

(単位：千円)

科目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	老健	看護師 養成所	本部	計
経常 収益	H30	6,810,706	1,987,337	1,795,555	4,242,095	8,301,002	470,447	131,598	24,303	23,763,042
	H29	6,568,626	2,000,712	1,851,682	4,193,105	7,933,486	485,938	133,621	33,621	23,200,791
	差引	242,080	▲ 13,375	▲ 56,127	48,990	367,516	▲ 15,491	▲ 2,023	▲ 9,318	562,251
経常 費用	H30	6,678,365	2,021,044	1,623,273	4,157,571	7,927,275	460,336	156,188	321,624	23,345,675
	H29	6,670,987	1,975,527	1,643,957	4,254,060	7,796,334	463,522	160,459	359,446	23,324,292
	差引	7,378	45,517	▲ 20,684	▲ 96,489	130,941	▲ 3,186	▲ 4,271	▲ 37,822	▲ 21,383
経常 損益	H30	132,341	▲ 33,708	172,282	84,524	373,728	10,111	▲ 24,590	▲ 297,321	417,367
	H29	▲ 102,361	25,185	207,725	▲ 60,955	137,152	22,416	▲ 26,838	▲ 325,826	▲ 123,501
	差引	234,702	▲ 58,893	▲ 35,444	145,479	236,575	▲ 12,305	2,248	28,504	540,867
純損益	H30	134,134	▲ 33,837	170,827	84,521	373,291	10,111	▲ 24,590	▲ 297,703	416,755
	H29	▲ 109,319	25,185	207,725	▲ 60,955	137,152	22,416	▲ 26,838	▲ 325,826	▲ 130,458
	差引	243,453	▲ 59,022	▲ 36,898	145,476	236,139	▲ 12,305	2,248	28,123	547,213

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(ウ) 損益の状況（病院等別：年度計画との比較）

(単位：千円)

科目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	老健	看護師 養成所	本部	計
経常 収益	H30 (決算)	6,810,706	1,987,337	1,795,555	4,242,095	8,301,002	470,447	131,598	24,303	23,763,042
	H30 (計画)	6,787,576	1,990,089	1,923,345	4,248,099	7,840,221	491,373	132,680	40,057	23,453,440
	差引	23,130	▲ 2,752	▲ 127,790	▲ 6,004	460,781	▲ 20,926	▲ 1,082	▲ 15,754	309,602
経常 費用	H30 (決算)	6,678,365	2,021,044	1,623,273	4,157,571	7,927,275	460,336	156,188	321,624	23,345,675
	H30 (計画)	6,706,870	2,041,036	1,699,603	4,239,411	7,798,426	470,708	167,457	308,065	23,431,576
	差引	▲ 28,505	▲ 19,992	▲ 76,330	▲ 81,840	128,849	▲ 10,372	▲ 11,269	13,559	▲ 85,901
経常 損益	H30 (決算)	132,341	▲ 33,708	172,282	84,524	373,728	10,111	▲ 24,590	▲ 297,321	417,367
	H30 (計画)	80,706	▲ 50,947	223,742	8,688	41,795	20,655	▲ 34,777	▲ 268,008	21,864
	差引	51,635	17,239	▲ 51,460	75,836	331,933	▲ 10,554	10,187	▲ 29,313	395,503
純損益	H30 (決算)	134,134	▲ 33,837	170,827	84,521	373,291	10,111	▲ 24,590	▲ 297,703	416,755
	H30 (計画)	80,706	▲ 50,947	223,742	8,688	41,795	20,655	▲ 34,777	▲ 268,008	21,864
	差引	53,428	17,110	▲ 52,915	75,833	331,496	▲ 10,554	10,187	▲ 29,695	394,891

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(イ) 資金収支の状況 (病院機構全体)

(単位：円)

区 分	平成30年度 実績(a)	平成30年度 予算額(b)	差額 (a)-(b)
収入			
営業収益	23,098,150,788	22,843,757,000	254,393,788
営業外収益	602,256,815	555,839,000	46,417,815
資本収入	1,415,063,806	1,801,717,000	▲ 386,653,194
臨時利益	43,064,453	0	43,064,453
計 (ア)	25,158,535,862	25,201,313,000	▲ 42,777,138
支出			
営業費用	20,850,635,701	21,213,711,000	▲ 363,075,299
営業外費用	443,708,661	438,201,000	5,507,661
資本支出	4,083,233,431	4,344,017,000	▲ 260,783,569
臨時損失	18,580,168	0	18,580,168
計 (イ)	25,396,159,961	25,995,929,000	▲ 599,771,039
単年度資金収支 (ア)-(イ)	▲ 237,622,099	▲ 794,616,000	556,993,901

(オ) 医業収支の状況 (病院別)

(単位：百万円)

区 分		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
信州医療 センター	収益	5,073	4,839	5,359	5,230	5,444	5,633
	費用	5,920	5,867	6,191	6,160	6,369	6,374
	差引	▲ 847	▲ 1,028	▲ 832	▲ 930	▲ 925	▲ 741
こころの 医療センター駒ヶ根	収益	1,309	1,421	1,287	1,245	1,310	1,301
	費用	1,892	1,974	1,869	1,902	1,904	1,952
	差引	▲ 583	▲ 553	▲ 582	▲ 657	▲ 594	▲ 651
阿南病院	収益	958	895	871	930	963	920
	費用	1,643	1,596	1,574	1,566	1,587	1,566
	差引	▲ 685	▲ 701	▲ 702	▲ 636	▲ 623	▲ 647
木曽病院	収益	3,564	3,473	3,668	3,397	3,144	3,181
	費用	4,038	4,039	4,415	4,271	4,070	3,986
	差引	▲ 475	▲ 566	▲ 747	▲ 874	▲ 926	▲ 805
こども病院	収益	5,557	5,830	5,660	5,909	5,953	6,269
	費用	7,202	7,186	7,149	7,455	7,445	7,580
	差引	▲ 1,645	▲ 1,356	▲ 1,488	▲ 1,547	▲ 1,492	▲ 1,311
病院計	収益	16,460	16,458	16,846	16,710	16,814	17,304
	費用	20,695	20,662	21,197	21,355	21,375	21,459
	差引	▲ 4,235	▲ 4,204	▲ 4,351	▲ 4,645	▲ 4,561	▲ 4,155

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

オ 病院別の経営指標

(7) 医業収支、医業収益に対する職員給与費比率の状況

(単位：千円、%)

項目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども
医業収益	H30	5,633,407	1,300,933	919,519	3,180,699	6,269,189
	H29	5,444,197	1,309,912	963,377	3,144,010	5,952,776
	増減	189,210	▲ 8,979	▲ 43,858	36,689	316,413
医業費用	H30	6,374,362	1,951,899	1,566,221	3,986,164	7,580,198
	H29	6,369,096	1,904,179	1,586,829	4,069,786	7,445,016
	増減	5,266	47,720	▲ 20,608	▲ 83,622	135,182
医業収支 (医業収益－ 医業費用)	H30	▲ 740,954	▲ 650,966	▲ 646,702	▲ 805,465	▲ 1,311,009
	H29	▲ 924,899	▲ 594,267	▲ 623,452	▲ 925,776	▲ 1,492,240
	増減	183,945	▲ 56,699	▲ 23,250	120,311	181,231
職員給与費	H30	3,579,601	1,388,547	894,254	2,249,211	4,337,605
	H29	3,546,220	1,365,825	879,194	2,245,119	4,299,961
	増減	33,381	22,722	15,060	4,092	37,644
職員給与費／ 医業収益 比率	H30	63.5	106.7	97.3	70.7	69.2
	H29	65.1	104.3	91.3	71.4	72.2
	増減	▲ 1.6	2.4	6.0	▲ 0.7	▲ 3.0

- 信州医療センターでは、医業収益が大幅に増加したことにより、医業収支が大幅に改善した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が増加したものの医業収益が大幅に増加したため、低下した。
- こころの医療センター駒ヶ根では、医業収益が前年度並みに対して医業費用が増加したことにより、医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が増加したため、上昇した。
- 阿南病院では、医業費用が減少したものの医業収益の減少が上回ったことにより、医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が増加し医業収益が減少したため、大幅に上昇した。
- 木曾病院では、医業収益が増加し医業費用が減少したことにより医業収支が改善した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が前年度並みに対し医業収益が増加したため、低下した。
- こども病院では、医業費用が増加したものの医業収益の増加が大幅に上回ったことにより、医業収支が大幅に改善した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が増加したものの医業収益が大幅に増加したため、低下した。

(イ) 延患者数、病床利用率、入院・外来収益の状況

(単位：人、%、千円)

項目		区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども
延患者数	入院	H30	90,876	37,515	19,272	48,709	55,723
		H29	90,537	37,848	20,818	46,554	53,560
		増減	339	▲ 333	▲ 1,546	2,155	2,163
	外来	H30	120,801	40,051	47,667	127,418	64,946
		H29	122,540	41,024	48,562	128,076	62,842
		増減	▲ 1,739	▲ 973	▲ 895	▲ 658	2,104
病床利用率	H30	81.2	78.5	60.4	78.1	78.0	
	H29	79.3	79.2	63.7	64.3	74.5	
	増減	1.9	▲ 0.7	▲ 3.3	13.8	3.5	
入院収益	H30	3,797,262	1,016,383	546,811	1,733,739	5,387,718	
	H29	3,693,806	1,026,447	573,920	1,647,929	5,121,784	
	増減	103,456	▲ 10,064	▲ 27,109	85,810	265,934	
外来収益	H30	1,575,435	270,213	329,359	1,350,739	827,063	
	H29	1,514,501	269,792	345,066	1,394,831	787,522	
	増減	60,934	421	▲ 15,707	▲ 44,092	39,541	

- 信州医療センターでは、新たな診療報酬の算定や化学療法の治療件数の増加等による1人あたりの診療単価の上昇、分娩件数の増加により、入院・外来収益がともに増収となった。
- こころの医療センター駒ヶ根では、地域のクリニックの開設による入院延患者数の減少により、入院収益が減収となった。外来延患者数も減少したものの、高額な抗精神病剤の使用増加による1人あたりの診療単価の上昇により、外来収益は前年度並みとなった。
- 阿南病院では、常勤外科医の不在や人工透析患者の減少による入院・外来延患者数の減少により、入院・外来収益がともに減収となった。
- 木曽病院では、地域包括ケア病棟の効率的な運用等による入院延患者数の増加により、入院収益が大幅な増収となった。人口減少に伴う外来延患者数の減少により、外来収益が減収となった。
- こども病院では、神経小児科や循環器科等の入院延患者数の増加や、検査料の増加等による1人1日あたりの診療単価の上昇により、入院収益が大幅な増収となった。放射線治療機器の成人患者への活用等による外来延患者数の増加により、外来収益が増収となった。

カ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>職員の経営分析力を一層高め、経営を多角的に分析することで、財務内容の改善に向けた取組を一層進めてもらいたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の運営会議や全体朝礼を通じて、経営状況や病院の方向性を共有し、職員の経営参画意識の醸成を図っている。 ・ 経営企画室会議を中心として、多職種のワーキンググループによる診療単価向上策の検討、医療・看護必要度の分析状況を院内で共有して診療報酬改定に対応した入院料の基準を維持するなど、経営改善の取組を継続している。 ○ こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営分析力向上を図るため、毎月の病院運営会議において、経営状況の分析及び改善策について検討するとともに、その内容を「病院運営会議だより」により、全職員に対して分かりやすく説明している。 ・ 電子カルテ更新に伴い、国の精神医療の見える化研究プロジェクト（PECOシステム）に参加し、他の精神科病院と医療の質についての比較により、改善を図っている。 ○ 阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が病院の現況、今後進んでいく方向を共有するため、年度計画、経営状況を分かりやすく解説するための説明会を各科ごとに実施し、職員も病院経営の当事者であるという意識づけに繋がった。 ○ 木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の月次決算の状況を分かりやすく解説するとともに各部署の取組を紹介する「経営改善ニュース」を発行し、職員の意識の醸成を図った。 ・ 経費削減チームを結成し、財務内容の改善に取り組んだ。 ○ こども病院 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに診療部医師2名を経営企画室メンバーに加え、より現場の意見を汲み上げた経営改善の機能を拡充した。（再掲） ○ 本部事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会、看護部長事務部長会議等を通じて財務状況を報告するとともに、運営会議などを通して財務改善に資する新たな提案等の意見交換を行った。 <hr/> <p>【評価】 経営分析力を高めるための取組を積極的に行い、分析結果をさらに組織内に広く周知するなど、積極的な取組を行ったことが認められた。</p>

3 病院等別の評価

(1) 信州医療センター

ア 特に評価する取組

- 多職種からなる入退院支援室を設置し、入院中の支援や、早期からの退院後の支援を行うことで、安心して入院できる体制を整備した。
- 患者数及び医療・看護必要度に応じた職員配置の検討・取組により、配置人数の適正化を図った。

イ 今後に向けた課題

- 産科の機能強化や分娩件数の増加に向けた様々な取組、県内の感染症医療の拠点としての機能や医療人材の養成機能等を、積極的に広報して、地域に根付かせていただきたい。
- 内視鏡センターの増床について、件数増の取組を広げるとともに、令和元年度中に投資に対する分析を行い、課題を検証することで、今後の投資計画の策定に活かしていただきたい。

ウ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>産科の常勤医師を確保し、分娩業務を再開することができた。今後も分娩数の増加に向けた積極的なPR活動を継続し、須高地域の産科医療機関としての役割を果たしていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分娩取扱い再開及び医師増員等による産科医療の充実について広く周知するため、5月のプレママイベントでのブース出展や、ママ向け雑誌への3号連続掲載など、ターゲットを絞った広報活動を開始した。 ・ また、安心して療養・出産できるよう、ニーズの高い個室を増室するとともに内装をリニューアルし、分娩件数の増加を図っている。今後もホームページ等を活用しながら積極的かつ効果的なPR活動を行い、地域の産科医療の充実に貢献していく。 <p>【評価】</p> <p>産科医療の充実について広く周知したことが認められた。分娩件数については、前年度から大きく増加した一方で、目標を下回っている。今後も取組を続けることで、分娩件数を増加させ、数値目標を達成するとともに、須高地域の産科医療機関としての役割を果たしていくことを期待したい。</p>
<p>内視鏡センターを増床し、機能拡充を図ったところだが、内視鏡検査件数については目標と大きな乖離が生じている。収益に見合う投資という観点で分析するとともに、課題を分析のうえ、件数増の取組を一層進めていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年7月から市町村、須高医師会と連携し対策型胃検診の受託を開始したことにより、検査件数が増加した。今後は、須高地域以外の近隣市町村が行う検診を受託するなど件数増加に努めていく。 ・ また、9月に市民公開講座「増えつつある大腸がんの検査と治療について」を開催し、内視鏡検査による大腸がんの早期発見の重要性及び当院の診療体制のPRを行った。 ・ 今後、投資に対する分析方法を検討するとともに、引き続き地域医療機関との連携、PR活動を強化し、内視鏡検査件数の増加に向け取り組んでいく。

	<p>【評価】 内視鏡検査件数の増加に向け、積極的に取り組んだことが認められたが、検査件数については目標を下回っている。 今後、機能の拡充について、「収益に見合う投資」という観点での分析や課題の分析を行うことを期待したい。</p>
<p>県立5病院の中核的な病院として、民間病院で行われている経営分析を積極的に採用するなど、他の4病院に先んじた取り組みを行っていただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療科別の患者数及び収益と月次損益の状況について分析を行い、毎月の運営会議や全体朝礼を通じて全職員で共有している。 ・ また、医薬品や診療材料、医療機器等の購入に際して、ベンチマークデータを活用しており、特に診療材料については、使用実績が多い診療科を中心にメーカー及び卸業者と分析データを基に価格交渉を重ねて費用削減に努めている。 <hr/> <p>【評価】 県立5病院の中核的な病院として、積極的な取組を行ったことが認められた。</p>

(2) こころの医療センター駒ヶ根

ア 特に評価する取組

- 思春期外来を開設するとともに、多職種連携によるデイケアを実施し、思春期年代（15歳から18歳まで）の精神科医療を充実した。
- 地域で安心して生活できるよう、在宅医療などの退院前後の支援を充実するとともに、外出・外泊訓練を手厚く行った結果、退院後3ヶ月以内の再入院率の抑制につながった。

イ 今後に向けた課題

- 発達障がいや摂食障がいなど、ニーズが高まっている児童・思春期精神科医療について、引き続き取組を進めていただきたい。

ウ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
平均在院日数の短縮や地域生活支援などにより地域移行の推進に努めていただいたが、引き続き職員給与費対医業収益比率に注意しつつ取り組んでいただきたい。	【課題への取組】 <ul style="list-style-type: none">・ 安定した地域生活を送るためには、入院治療が適切な期間をかけることが必要のため、入院時から退院後を見据えた支援を行った。その結果、3ヶ月以内の再入院が減少している。・ また、年間通じて高い病床利用率を維持するため、入院患者の計画的な受入れの検討を始め、医療収益のさらなる確保に努めた結果、計画に近い利用率となった。・ 平成29年度の当院の「職員給与費対医業収益比率」は、全国の県立精神科病院では中位であるが、他院の動向にも注視しながら、引き続き、収益確保、適切な人員配置や業務の効率化を図っていききたい。
	【評価】 <p>職員給与費対医業収益比率に留意の上、患者とその家族に対し手厚い支援を行い、地域移行の推進に取り組んだことが認められた。</p>

(3) 阿南病院・阿南介護老人保健施設

ア 特に評価する取組

- 地域のニーズを把握して、小児科の日曜診療の実施やリハビリテーション体制の整備により、医療の充実を図った。
- 限られた人員の中で、訪問診療等の在宅医療を実施し、下伊那南部地域における地域包括ケアシステムの中核的な役割を担うとともに、無医地区への巡回診療を継続した。

イ 今後に向けた課題

- 病床利用率の向上に向けた取組について、病床削減を試行的に実施するなど、一定の取組がなされているものの、依然、低い傾向にある。ついては、向上に向けた短期的な取組をさらに加速させるとともに、持続的な病院運営に向け、病床機能の転換や規模の見直しをさらに進めていただきたい。
- 介護老人保健施設について、入所者数が減少傾向にあることから、引き続き市町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。

ウ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
訪問診療や訪問看護については、関係機関と調整のうえ、引き続き地域のニーズに合わせて提供していただきたい。	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域医療総合支援センターにおいて、訪問診療・看護・リハビリ・服薬指導等を積極的に実施し、特に重度の患者に頻回の訪問看護を行うなど、在宅での療養生活を継続できるよう支援している。今後も地域ニーズに合わせ、提供していく。 <p>【評価】</p> <p>訪問診療や訪問看護などの在宅医療について、積極的に実施していることが認められた。</p> <p>今後は、訪問看護ステーションの運営について、さらに検討を進め、地域のニーズに応えていくことを期待する。</p>

(4) 木曾病院・木曾介護老人保健施設

ア 特に評価する取組

- 医学生を対象とした見学会に加え、県内の高校生を対象とした体験会を開催し、木曾病院を始めとする県内の医療機関における、将来的な人材確保に向けた取組を行った。
- 患者サポートセンターを開設し、退院後の介護・福祉サービス等を入院時から見据えて支援する体制を整備した。
- 入院患者数の目標をわかりやすいキャッチフレーズとして院内で共有することで、病院運営の一体化に努めた。また、電気料金の抑制の取組を進めたことで、病院機構全体の経費節減につなげた。

イ 今後に向けた課題

- 積極的な取組により、昨年度から入院患者数が増加し、病床利用率が上昇したが、地域の人口は減少傾向にある。については、引き続き、地域に必要な医療を持続的かつ効率的に提供できるよう、努めていただきたい。
- 介護老人保健施設の利用について、通所者を中心に利用者が減少傾向にあることから、引き続き町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。
- 木曾医療圏の唯一の病院として、人間ドック等の予防医療の提供についても、積極的に取り組んでいただきたい。

ウ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
入院患者数が減少傾向にあること、さらに病床利用率が前年度から大幅に低下したことから、木曾地域唯一の病院として、地域に必要な医療を持続的かつ効率的に提供できるよう努めていただきたい。	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 29年度の決算に基づく損益分岐点分析から1日当たりの入院患者数の目標129名を算出し、院内全体で共有するためにキャッチフレーズを職員から募集し、「1歩2歩9ろじ（黒字）」と定め、入院患者の確保に努めた。 <hr/> <p>【評価】</p> <p>入院患者数の確保に向け、キャッチフレーズを院内で共有し、一体的に取り組んだことが認められた。</p>

(5) こども病院

ア 特に評価する取組

- 高度な小児・周産期医療を提供しつつ、母子メンタルヘルス外来を開設し、産後の精神的なサポートを行うとともに、予防医療などのプレホスピタルケアや在宅移行支援や成人移行期支援のポストホスピタルケアについても関係機関と連携して積極的に取り組んだ。
- 経営企画室に医師を配置するなど、現場の意見をくみ上げた経営改善を推進するとともに、リニアック（放射線治療装置）などの高度な医療機器を、成人を対象にした放射線治療に活用することで、稼働件数を大幅に増加させるなど、経営的な視点からの取組を積極的に進め、大幅な収支改善につなげた。
- 信州大学との連携大学院教育の準備を進め、県内の小児・周産期医療水準を向上させるための体制を整備した。

イ 今後に向けた課題

- 引き続き、医療安全と経営的な視点を両立する職員配置に努め、今後も県内の小児・周産期医療の最後の砦としての役割を果たしていただきたい。

ウ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
発達障がいの診療ニーズの増加など、小児・周産期医療に求められる役割の変化に対応するため、医療人材を育成するとともに、診療ネットワークの構築や拡充に取り組んでいただきたい。	【課題への取組】 <ul style="list-style-type: none">・ 信州大学との連携大学院開講を活用し、全国から優秀な医療人材を確保するとともに、変化に柔軟に対応できる人材の育成を進めていく。また、当院のこれまでの取組をベースに、様々なチャンネルを活用し、診療ネットワークの充実に取り組んでいく。
	【評価】 <p>連携大学院を開講し、人材の確保・育成にこれまで以上に積極的に取り組むため、準備を進めたことなどが認められた。</p>

(6) 信州木曾看護専門学校

ア 特に評価する取組

- 学校の強みを活かしたカリキュラムと国家試験への手厚いサポートにより、3年連続で看護師国家試験に卒業生全員が合格し、県立病院を始めとする、地域医療を担う医療機関に看護人材を輩出した。

イ 今後に向けた課題

- 教育の質を維持・向上させ、今後も看護人材を輩出し続けるため、関係機関と連携の上、計画的に教員を確保・養成していただきたい。
- 学校の強みを周知するなど、引き続き、積極的に学生確保に努めていただきたい。

ウ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
恵まれた学習環境や特色あるプログラムなどの強みを、県内外の学生に対し周知することにより、引き続き、学生確保に努めていただきたい。	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 64校の高校へ訪問を行い、進路ガイダンスを6回実施した。また、オープンキャンパスを2回実施し、194人の来場があった。・ 校内に広報委員を設置し、ブログを始め様々なメディアを通し情報の発信に努めた。 <p>【評価】</p> <p>様々なメディア利用や、学生による広報など、周知を工夫し、学生確保に努めたことが認められた。</p>

(6) 本部事務局

ア 特に評価する取組

- 各病院と人員配置の適正化に取り組むとともに、給与制度の見直しを積極的に取り組んだ。

イ 今後に向けた課題

- 研修センターの取組を広く周知するとともに、スキルスラボの共同利用の促進などにより県内の医療水準の向上にさらに貢献していただきたい。

ウ 昨年度指摘された課題への取組

課題	課題への取組と県の評価
<p>人員増による体制強化が、十分に効果を発揮するよう、法人運営に取り組んでいただきたい。</p>	<p>【課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 平成30年4月に、本部及び病院事務部の組織改正を実施し、以下のとおり効果が得られた。・ 本部に改革統括医療監・理事、改革担当次長及び経営戦略担当次長を配置し、看護職員の適正な配置についての検討を行った。・ 本部に診療報酬に精通した担当を配置し、各病院の収益増対策の進捗状況を本部・病院間で情報共有することにより、収益増につながる取り組みを進めた。・ 病院の課・係及び分掌事務の統一化により、次長・総務課長会議、医事課長会議及び経営企画課長会議を開催し、病院間の連携強化を図った。<ul style="list-style-type: none">・ 次長・総務課長会議（4月19日、2月1日）・ 医事課長会議（8月20日）・ 経営企画課長会議（7月3日）
	<p>【評価】</p> <p>管理部門の体制を強化し、人員配置の適正化を着実に推進し、経営改善に向けた取組が効果的に実行されたことが認められた。</p>

(参考) 中期計画との対比

1 経常収支 (病院機構全体)

(単位：百万円)

科 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	27～30 年度 累計	令和 元 年度
経常収益 (ア)	決算	23,222	23,095	23,201	23,763	93,280	
	中期計画	23,325	23,202	23,514	23,553	93,594	23,614
医業収益	決算	16,846	16,710	16,814	17,304	67,674	
	中期計画	16,864	16,728	17,046	17,102	67,740	17,183
うち入院収益	決算	11,962	12,005	12,064	12,482	48,513	
	中期計画	12,107	11,960	12,251	12,307	48,624	12,380
うち外来収益	決算	4,445	4,276	4,312	4,353	17,385	
	中期計画	4,339	4,353	4,381	4,383	17,456	4,392
その他医業収益	決算	439	429	439	469	1,776	
	中期計画	418	416	414	412	1,660	411
介護老人保健施設収益	決算	373	371	375	362	1,481	
	中期計画	403	403	403	403	1,611	403
その他経常収益	決算	522	534	532	618	2,205	
	中期計画	579	591	585	568	2,323	549
運営費負担金収益		5,480	5,480	5,480	5,480	21,920	5,480
経常費用 (イ)	決算	23,185	23,358	23,324	23,346	93,214	
	中期計画	22,916	22,783	22,806	23,023	91,529	22,901
医業費用	決算	21,197	21,355	21,375	21,459	85,386	
	中期計画	20,867	20,785	20,811	21,068	83,531	20,999
うち給与費	決算	11,912	12,333	12,336	12,449	49,110	
	中期計画	11,683	11,693	11,833	12,137	47,346	12,228
うち材料費	決算	3,898	3,749	3,688	3,817	15,152	
	中期計画	3,634	3,633	3,690	3,695	14,652	3,703
うち減価償却費	決算	2,317	2,256	2,174	1,944	8,691	
	中期計画	2,353	2,257	2,089	1,982	8,682	1,897
その他医業費用	決算	3,070	3,017	3,176	3,248	12,512	
	中期計画	3,196	3,201	3,200	3,254	12,851	3,171
介護老人保健施設費用	決算	434	442	424	424	1,724	
	中期計画	468	459	455	455	1,837	459
その他経常費用	決算	1,554	1,561	1,526	1,463	6,104	
	中期計画	1,582	1,539	1,540	1,501	6,161	1,443
経常損益 (ア-イ)	決算	37	▲ 264	▲ 124	417	67	
	中期計画	409	419	708	530	2,065	713
経常収支比率 (ア/イ)		100.2	98.9	99.5	101.8	100.1	
臨時損益 (ウ)		▲ 4	0	▲ 7	▲ 1	▲ 11	
純損益 (ア-イ+ウ)		33	▲ 264	▲ 130	417	55	

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

2 経常収支（病院等別）

（単位：百万円）

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	27～30 年度 累計	令和 元 年度
信州医療センター	決算	91	7	▲ 102	132	128	
	中期計画	207	213	247	219	887	308
こころの医療 センター駒ヶ根	決算	36	▲ 41	25	▲ 34	▲ 13	
	中期計画	41	51	95	11	198	▲ 32
阿南病院	決算	85	160	208	172	625	
	中期計画	▲ 60	▲ 57	▲ 40	▲ 37	▲ 194	▲ 40
木曽病院	決算	25	▲ 39	▲ 61	85	10	
	中期計画	311	312	328	288	1,239	286
こども病院	決算	66	6	137	374	583	
	中期計画	180	148	334	301	963	439
介護老人保健施設	決算	0	▲ 6	22	10	27	
	中期計画	▲ 2	11	17	19	44	19
看護師養成所	決算	▲ 17	▲ 26	▲ 27	▲ 25	▲ 94	
	中期計画	▲ 22	▲ 24	▲ 22	▲ 23	▲ 91	▲ 22
本部	決算	▲ 250	▲ 325	▲ 326	▲ 297	▲ 1,199	
	中期計画	▲ 244	▲ 235	▲ 253	▲ 248	▲ 981	▲ 245
計	決算	37	▲ 264	▲ 124	417	67	
	中期計画	409	419	708	530	2,066	714

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

3 資金収支

（単位：百万円）

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	27～30 年度 累計	令和 元 年度
現金収入	決算	23,996	25,267	24,428	25,159	98,849	
	中期計画	24,493	25,961	24,479	25,228	100,160	24,514
現金支出	決算	23,907	25,690	24,774	25,396	99,766	
	中期計画	24,225	26,030	24,297	25,501	100,053	24,579
資金収支	決算	89	▲ 422	▲ 346	▲ 238	▲ 917	
	中期計画	268	▲ 69	182	▲ 273	107	▲ 65

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

4 病院別の主要経営指標

(1) 職員給与費／医業収益比率

(単位：％)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	63.7	66.5	65.1	63.5	
	計画	61.8	62.1	61.1	62.4	62.1
こころの医療センター駒ヶ根	実績	103.6	110.4	104.3	106.7	
	計画	97.4	97.4	96.7	100.0	102.0
阿南病院	実績	99.9	94.9	91.3	97.3	
	計画	111.8	113.8	117.0	121.4	122.7
木曽病院	実績	60.4	68.5	71.4	70.7	
	計画	59.3	60.0	60.5	62.4	63.0
こども病院	実績	72.1	72.3	72.2	69.2	
	計画	69.3	69.8	68.8	69.6	69.4

(2) 材料費／医業収益比率

(単位：％)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	23.8	24.5	25.1	25.4	
	計画	25.5	26.2	26.0	25.8	25.7
こころの医療センター駒ヶ根	実績	8.0	7.9	8.4	8.5	
	計画	11.6	11.6	11.6	11.5	11.5
阿南病院	実績	18.7	16.8	17.0	17.2	
	計画	19.2	19.2	19.2	19.2	19.2
木曽病院	実績	32.1	27.5	25.1	23.6	
	計画	25.5	25.5	25.5	25.5	25.6
こども病院	実績	20.8	21.6	21.1	21.8	
	計画	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0

(3) 病床利用率

(単位：%)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	82.4	75.9	80.2	81.9	
	計画	73.4	75.8	75.3	76.1	76.4
こころの医療 センター駒ヶ根	実績	77.1	77.4	79.2	78.5	
	計画	79.5	79.8	81.8	81.8	82.2
阿南病院	実績	50.8	58.7	63.7	60.4	
	計画	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5
木曽病院	実績	71.1	70.7	64.3	78.1	
	計画	85.4	85.3	84.9	84.6	84.0
こども病院	実績	76.1	76.0	74.5	78.0	
	計画	74.4	74.3	75.3	75.3	75.1

《病床数》

- ・ 信 州 平成30年11月まで272床、12月は261床、平成31年1月から264床
(結核病床、感染症病床を除く)
- ・ 駒ヶ根 129床
- ・ 阿 南 平成30年12月まで85床、平成31年1月から77床
- ・ 木 曽 平成30年2月まで186床、3月は181床、4月から159床 (感染症病床を除く)
- ・ こども 180床